



2021年度上期相談件数 1,431件 前年比150.2%

2021年度上期は、引き続き新型コロナに起因する不安や孤独感を訴える相談、人間関係や生活上のトラブルなどの相談がありました。

上期前半は、怒りをぶつけてくる方、泣きながら相談される方などが多くあり、コロナ禍でストレスフルな状況の中、不安・不満の感情を顔の見えない電話相談にはきだしているようにも思われました。

相談件数が毎月200件を超える中、相談員・事務局で一丸となり少しでも安心して相談者が話ができるように努めています。

人材育成事業

第8期「協同を学ぶ」インターンシップ

つながりインターンシップ@協同

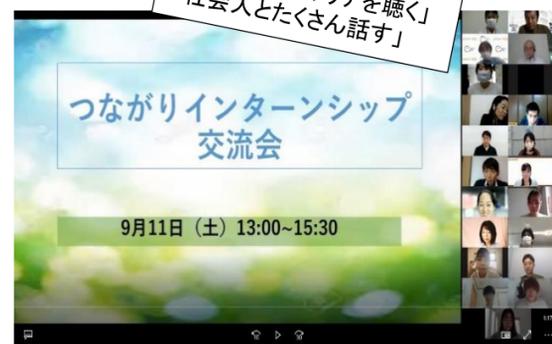
学生15名、受入17団体（農協2、生協2グループ8団体、信用金庫1、労働金庫1、労協2、社福1、NPO1、株1）が5つのグループに分かれてインターンシップを行っています。

（協力：大学教員、シンクタンク研究員、日本協同組合連携機構）

今年度は2020年度インターン生3名が全体企画の交流会と修了報告会の企画運営を担当しています。

グループごとの活動のため、学生チームで考えて動くスタイルが定着し始めており、「協同」に欠かせない主体性がおのずと育まれています。学生と団体との「対話」も、プログラムを進めるにあたり行われるようになり、「人とのつながり」を感じる場面も増えているようです。

2020年度インターン生有志
が企画・運営
「社会人のキャリアを聴く」
「社会人とたくさん話す」



11月27日（土）13：00～17：00 つながりインターンシップ@協同 修了報告会

インターンシップの成果を共有しませんか。

ご興味ある方のオンライン参加

受付中！ →



立教大学サービスラーニング プロジェクト・プランニング

8月26、27、28、30、9月3日の5日間、2名の学生が当法人へ体験実習に入りました。緊急事態宣言下のため、ワークや体験もすべてオンラインとなりましたが、各相談員からのレクチャーやワーカースコップ入居ビル（東京DEW）からの中継、パルシステム東京のコミュニティワーク連絡会の交流会参加やパルシステム職員インタビューなど関連団体の協力を得て充実したプログラムとなりました。



日本大学生物資源科学部の新入生約150名をを対象に、4月28日に消費者教育講座「悪質商法に遭わないために～クーリングオフってなに？～」を行いました。



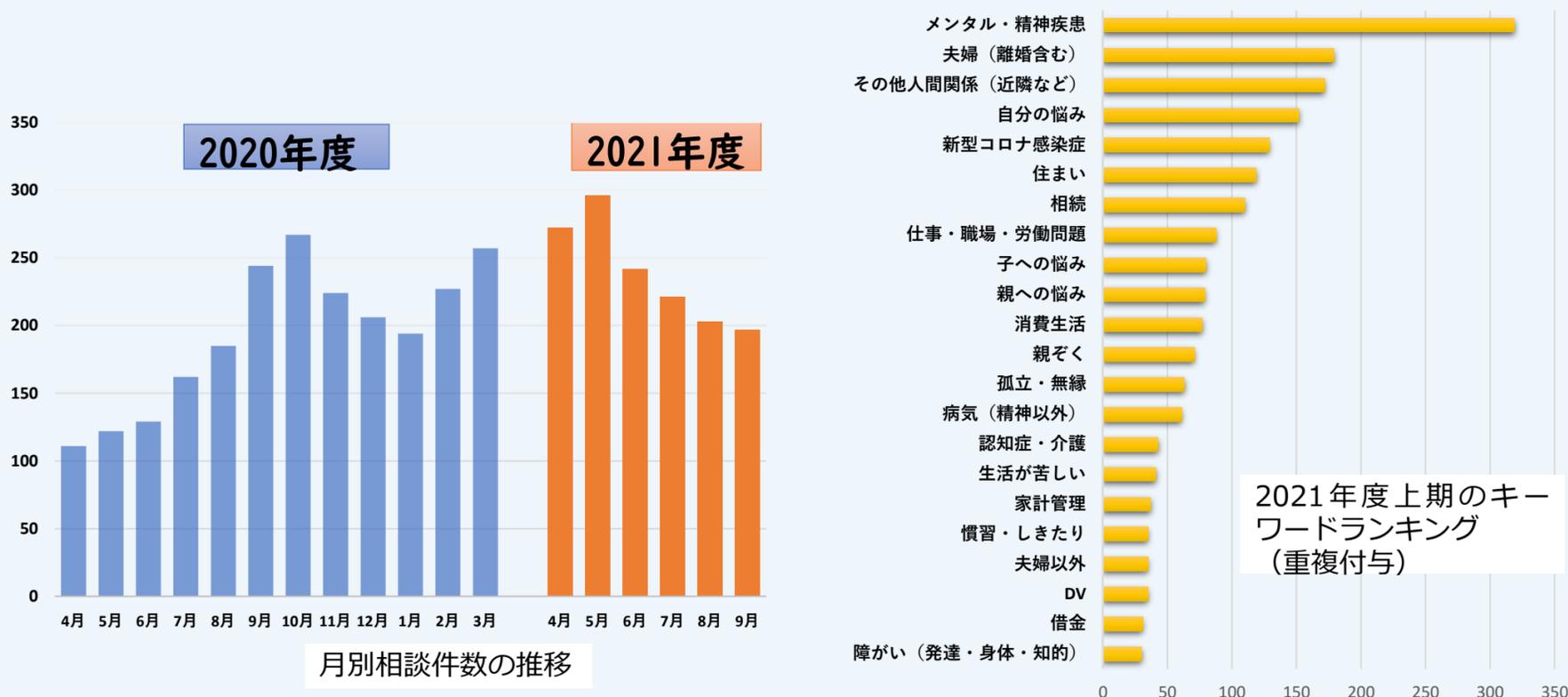
相談事業

相談件数が増加する中、相談員への感謝の声にホッとします

相続や介護による家族間の確執、コロナ関連では、夫婦での意識の相違、子どもへの感染不安、ワクチン接種できない不安などの相談がありました。

コロナ禍で怒りや悲しみの感情を前面に出す相談者が多くなった一方で、話をできたこと相談したことに対して「相談できるところがあってよかった」「聞いてもらえてスッキリした」という声も増えました。

夫婦のこと、親子のことは友人などには言えない感情や言葉を溜める方が多くいます。無料・匿名で何でも相談できる電話の窓口だからこそ、「人には言えない本音」を吐き出せ、相談者にとって大事な時間になると考えています。「この相談ダイヤルは相談しやすい」という相談者からの声が上期は複数あり、相談対応が大変な中での温かい声にこちらも感謝しています。



ナビダイヤルのご案内を終了します

これまで「くらしの相談ダイヤル」ではナビダイヤル（0570-055-656）と一般電話番号（03-6205-6720）のご案内を併記してきましたが、ナビダイヤル番号のご案内を終了することになりました。順次広報媒体での記載変更などを行っていきます。

※ナビダイヤルにかけた場合も2021年度中はこれまで同様相談電話につながります。

～家族が家にいて、電話がかけにくい方に向けて～
『くらしの困りごとLINE相談』

*LINE相談は、1案件につき原則1回のみ回答しています。



コロナ禍での対応として「くらしの困りごとLINE相談」を継続して実施しています。上期は27件（月平均4.5件）の相談が入っており、電話相談につながるケースもあります。全国各地から相談があります。利用者は20代が最も多く33%、次いで、30代（26%）、40代（22%）となっています。

電話法律相談のご案内（パルシステム組合員限定）

★ くらしの無料法律相談（毎月第4水曜日13～16時）

相談員 松本 美代子弁護士

心理カウンセラー経験のある弁護士が、相談者に寄り添った相談を受けます。

★ 女性のための電話法律相談（奇数月第2水曜日13～16時） ※1月からは面談（有料）相談再開の予定

相談員 田中 記代美弁護士

結婚・子育てでさまざまな苦勞を乗り越えた弁護士が、自身の経験をもとに寄り添い、離婚・DVなど男女関係の相談を受けます。

*いずれも相談料無料。事前予約制。お申込みおよび日程はホームページをご覧ください。

居住支援事業

住まい探し & 住まい活用に困った方のお手伝い

居住支援相談実績53件。うち、住まい探し相談は40件あり、
アパート・シェアハウスへの入居が計2名決まりました。

東京都から居住支援法人としての指定を受けて活動3年目となり、東京都や他団体からの紹介やウィズHPのフォームから相談されるケースもありました。

住まい探しでは福祉的サポートが必要な方が多くおり、行政や他の居住支援法人とも連携をして対応しています。また、新たな連携先として不動産事業者の開拓もおこないました。

見守りサポートも行っており、生活保護や福祉サービスに繋がってはいるものの、生活課題を抱えた方のサポートを継続しています。

「空き家・空き室困りごと解決セミナー」

8月28日（土）にパルシステム東京と共催でオンライン開催をし、25名の参加がありました。

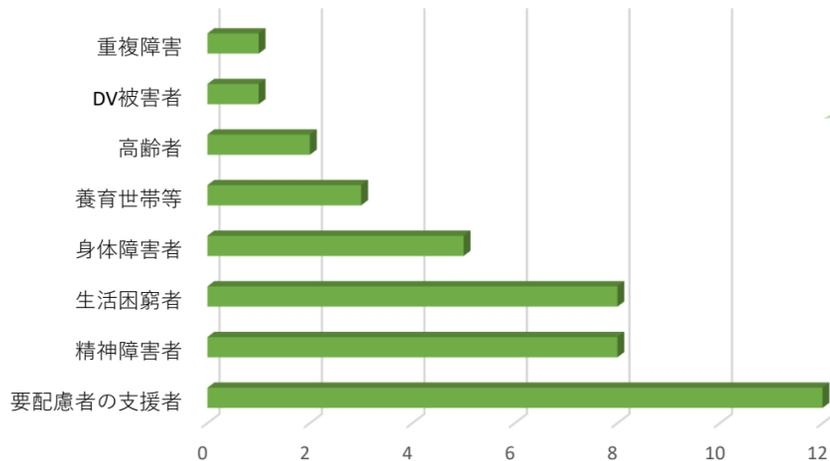
住宅確保要配慮者が入居できる物件が限られている一方で、社会的には「空き家・空き室」の問題が顕在化しています。居住支援活動をする中で見えてきたこれらの社会的課題に対し、先駆的に取り組んでいる(株)あんどの西澤氏を講師としてお招きし、制度の紹介や実際の相談事例を紹介しました。

参加者の感想

「居住支援住宅という形で社会貢献することができるのを知り、空き家の利用方法の選択肢のひとつとして良いと思った」

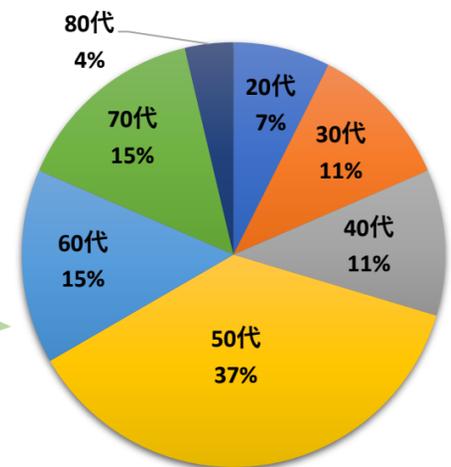


講師の(株)あんど西澤様



相談者の分類

相談者の年代



一般社団法人全国居住支援法人協議会 事務局 居住支援法人の活動支援や国・行政機関と課題協議

2021年度は国土交通省補助事業として新たに「居住支援法人設立・運営支援アドバイス事業」に取り組んでいます。全国から17団体の応募があり、5団体を選定して、居住支援法人の立ち上げ支援、運営や経営に関する知識や地域連携づくりに対してアドバイザーを派遣し、居住支援法人としてさらに役割を発揮できるようにサポートをしています。

「居住支援法人研修会（全4日）」「リーダー研修会（全3日）」は今年もすべてオンラインで開催をします。居住支援法人研修会の9月末延べ応募数は1,558ありました。

会員数は設立時は136団体（個人賛助13人含む）でしたが、2021年9月末時点では233団体（個人賛助26人含む）になりました。

第3回定時社員総会 & シンポジウム

2021年6月26日
開催



居住支援法人研修会

一財）高齢者住宅財団からの業務委託を受け、全国各地域での住宅確保要配慮者に対する居住支援活動の普及拡大を目的に、9月17日、10月15日、11月10日、12月16日（全4日間）開催します。



リーダー研修会

「居住支援法人リーダー研修会（全3日間）」をオンラインにて11月17日、18日、19日に開催予定。

居住支援相談窓口

居住支援法人や居住支援に関わる団体のための相談窓口の広報を強化しました。多様な活動を行う団体や事業者、行政などと連携し、相談対応をしています。上期40件（前年度年間35件）の相談が寄せられました。多い内容は居住支援法人立ち上げに関する問い合わせです。また、住宅確保要配慮者からの相談に対しては、くらしサポート・ウィズの居住支援で受け止め対応しています。

奨学金伴走支援



パルシステム連合会では、学びの意欲をもちながらも、経済的・社会的に困難な状況にある学生を対象に、月4万円を給付するとともに、生活面や精神面の伴走支援、社会学習の場への参加などを提供する「パルシステム給付型奨学金制度」を実施しています。

奨学金事業は奨学金事務局として、伴走支援団体、パルシステム連合会との間で報告書のとりまとめ、伴走支援団体連絡会議の調整を行いました。

奨学生は2020年度から引き続きモデル事業の学生2名（大学2年女性、大学2年男性）に加え、2021年度本格稼働した4名の学生を加え、計6名に対象が広がっています。

パルシステム奨学金の特徴である個々の学生の課題に寄り添う伴走型支援を事務局として後方から支援することで、顕在化しにくい学生の生活困窮や孤立など困難を抱えた若者への支援実態を把握し、社会的に求められていることを伝えていくことで、応援者を増やし、若者が自立しやすい社会にしていくことを目指しています。

その他の活動

首都圏若者サポートネットワークの活動

首都圏若者サポートネットワークは「社会的養護下に暮らす子どもたちなどの多様な自立を、伴走者と共に支援することで、自分の人生を切り開く一助とすること」を目的に活動しているネットワーク組織です。ウィズは共同事務局を担っています。

[首都圏若者サポートネットワーク 2020年度活動報告書はこちら→](#)



若者おうえん基金



2021年度 若者おうえん基金

クラウドファンディング挑戦中！！ 8月27日～11月25日
養護施設や里親の下で育った若者をサポートする団体を支援します

政策提言

2022年の児童福祉法改正を念頭に置き、「社会的養護出身者など困難な環境にある若者の自立を支援する事業の制度化に向けた政策提言」を作成し、6月15日厚生労働大臣、孤独・孤立対策大臣に対し、村木厚子顧問、宮本みち子委員長らで政策提言の申し入れを行いました。

就労キャリア支援

3期目となる「2021年度体験就労プログラム」を開始し、自分で仕事を探すのが難しい若者を、協同組合などのたすけあいの組織の体験就労につないでいます。上期は3名の若者の応募があり、1名は体験終了、2名はマッチングを行っています。

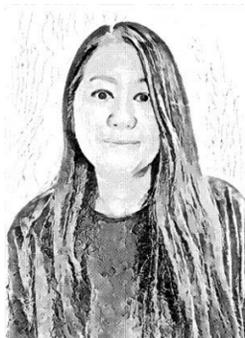
初めての仕事体験。
体を使う仕事は疲れ
たけど楽しかった
16歳男性



新しい仲間が増えました

櫻井 真衣子

5月入職



ウィズの事務局を担当しています。全くはじめての分野で毎日学びの連続です。少しでも皆さまのお役に立てるように努めて参ります。プライベートでは中1と小4の男子ママでもあります。趣味は読書・映画・旅です。

小山 未菜

8月入職



昨年度つながりインターンシップでお世話になり、今夏より居住支援のお手伝いをさせていただいています。現在大学で社会学を勉強していて、柔道部とダイビングサークルに入っています。趣味はおいしいものをたくさん食べることです。

ウィズの最新情報はホームページをご覧ください！



くらしの相談ダイヤル

検索